

平成30年8月31日@西益田地区振興センター まちづくりラウンドテーブル ワークショップ詳細

平成28年度より開始された市民と行政の“対話の場”、“学びの場”である「まちづくりラウンドテーブル」（通称「MRT」）。

今年度第1回目は「地産地消を考えよう」を実施し、地域自治組織、益田市食育推進委員、生産者事業者からも出席いただき、益田市の地産地消について議論しました。

平成30年度まちづくりラウンドテーブル

1. 挨拶



2. 地産地消を考えるために



ワークショップの前に市農林水産課より、地産地消について説明いたしました。



3. 自己紹介



4. ワーク①：地産地消の 状況を共有しよう



地産地消に関して、どんなことを取り組んでいるかなど付箋に書き出し共有しました。



5. ワーク②：地産地消の
魅力と課題を見つけよう！



6. ワーク③地産地消を進め
るための対策を考えよう！



7. 情報共有



地域づくりはチームづくり、地産地消に関してもチームづくりが大切だということを共有しました。



8. 閉会



平成30年度まちづくりラウンドテーブル

Aグループ：

ワーク①：地域の状況を共有しよう

新鮮

安全・安心

鳥獣対策

直売所

農業体験

給食

後継者がいない

トマト

地元産の食品が食べれる飲食店をあまり知らない

身体にいいため

山葵

人口が減ると消費も減る

輸送コストが安い

米のブランド化

米

ワーク②：魅力と課題を見つけよう！

魅力

流通コスト、安く手に入る、安心・安全、旬のものが食べられる、山葵の継続、移動販売、生産者の方の顔が見れる

課題

人材不足、担い手不足、高齢化、直売所の場所と広さの問題、移動販売も一考、売りが分からない人が多い、販売方法についての講習実演、種類に限られる、鳥獣対策、年間を通して安定して得ることが出来ない、値段と安心安全のバランス、PR不足、生産者の顔が分かるものが少ない、積極的な販売宣伝が必要、生産者の参加、地域間の情報共有不足、作物に限られる、高くなる

ワーク③：地産地消を進めるために必要なこと

テーマ 益田の農産物を売る為のPR方法と仕組みづくりのアイデア

誰が（誰と誰が）

何をするか？ ・ ・ 仕組み ・ 対策案

行政

企業

生産者

- ①生産者体験ツアー（試食会・収穫体験etc.）
- ②企業と生産者の結びついた仕組みを増やす。
- ③ケーブルTVを使ったPR
- ④地場産農産物を使ったレシピの開発
- ⑤学校給食での子供達への食育



平成30年度まちづくりラウンドテーブル

Bグループ：

ワーク①：地域の状況を共有しよう

朝市の開催

地産地消コーナー

豆腐作り

芋焼酎

わさびの収穫体験

給食

おすそわけ

イノシシを食べる

出来るだけ地元の企業の店で買い物をする

市場に出ない訳あり商品の販売

山葵葉の巻き寿司

温泉に産直コーナー

地元のお米を食べている

益田で生産したものが少ない

ワーク②：魅力と課題を見つけよう！

魅力

新鮮でおいしい、おいしいお米、安全安心、採れたてのものが食べれる幸せ、食育、安い、季節が楽しみ、潮の香り、何にでも興味を示す、地域が元気になる、地域の中の話し合いから生まれる

課題

宝の山が活用できてない、野菜があまる、加工技術、加工場が欲しい、海のそばなのに海の産物がない！？、商品化する為の技術の導入、大型店には益田の食品が置いてない、春の旬菜の天ぷら以外のメニュー開発？、匹見産のお土産をもっともっと、知名度が低い、地域のいいもの知らない食べてない、地域間交流はあまりない、中心になる人がいない

ワーク③：地産地消を進めるために必要なこと

テーマ 地域拠点創りと交流

誰が（誰と誰が） 何をするか？・・・仕組み・対策案

地域自治組織と地域自治組織

- ・益田を美味しく食べる「ミニ・ツアー」
- ・地域自治組織間の交流促進！！
- ・生産農家等への訪問

益田市と地域自治組織

- ・販売の拠点づくり
 - ・グローバル拠点（道の駅）
 - ・ローカル拠点（地域市場）

市民

- ・まずは知る！！
- ・何にでも興味を持つ！！



平成30年度まちづくりラウンドテーブル

Cグループ：

ワーク①：地域の状況を共有しよう

販売所がない	安全・安心	安い	果物が豊富
おすそわけ	給食	特産品の生産量が足りない	農業や地元産品への理解
道の駅を作る計画は市から出ているが進まない		地産地消コーナー	魚がおいしい
地元への愛着が形成できる	新しい種類の野菜が出てきた！	特産品は多い	地産物が地消できてない

ワーク②：魅力と課題を見つけよう！

魅力	<p>地元料亭では高級品として出ている、ハマグリ大きい美味しい、伝統的な農作業の継承、高津川のアユは有名、益田の人が一生懸命に作ったもの、自己満足、郷土愛、地域・地元への愛着形成、新鮮、味がよい、果物が豊富、フルーツはたくさんある、豊富な食材、生産者の顔が分かる、安全安心、安い、形にこだわらない</p>
課題	<p>後継者不足、若い労働力がいない、後継者の育成、高齢化率が高い、道の駅をつくろう、気軽に顔を見れる場所、売り物の拡大、商店がない、はまぐりが高い（数量も少ない）、わさびがない（地消できてない）、地産品が手に入らない、特産品は地元に出ない、自給率の向上、果物の種類をもっと多く、生産量の確保、種類の偏り、給食での利用が少ない、形が不揃いで料理に時間がかかる、消費者の拡大（若年者の意識向上）、地元のものを知らない</p>

ワーク③：地産地消を進めるために必要なこと

テーマ

後継者の育成・確保

誰が（誰と誰が）

何をするか？・・仕組み・対策案

生産者

消費者

行政

リタイヤをした人達

- ・学校教育で郷土愛を育てる
- ・UIターンの制度の見直し（年間を通しての活動を考える）
- ・シルバー農園センターの開園（行政は農地確保）
- リテールとコーディネートは自治組織



平成30年度まちづくりラウンドテーブル

Dグループ：

ワーク①：地域の状況を共有しよう

鮎	たまごの自販機がある	ワサビ	とうふ
地産地消コーナー	給食	ゆず	モクズガニ
県外の友達が来るときは益田の食材を使っている飲食店に行く		産地を見て買う	干しシイタケ
梅干し	パプリカ	ギブミー ベジタブル in 西益田	益田産カレー

ワーク②：魅力と課題を見つけよう！

魅力	新鮮、お手頃価格、安価、珍しいものがある、「ここしかない」ものがある、生産者の顔が見れる、季節を感じる、高津川の綺麗な水での農水産物、市内でお金がまわる、安心安全、おいしい、地域への愛着
課題	海外産と比べて高い、フルーツが地元産は高め、加工品が高い、値段にバラツキがある、後継者不足、後継者問題、PR不足、地元産の良さを伝えきれていない、包装、見た目、種類が少ない、農産物がダブる、生産量の確保

ワーク③：地産地消を進めるために必要なこと

テーマ

益田の良さのPR

誰が（誰と誰が）

何をするか？・・・仕組み・対策案

生産者

- ・体験ツアー
見る・聞く・作る・食べる

消費者（世代問わず）

- ・ネット販売、回覧板、ひとまる、告知端末

行政

- ・益田の〇〇を使った料理教室



平成30年度まちづくりラウンドテーブル

Eグループ：

ワーク①：地域の状況を共有しよう

産直市	産直市に出している	地元産を買う	おすすめ
米を生産し地区の人に売っている	魚をとって人にあげる	珍しいものはあまり売れない	安心安全
旬の物はおいしいのに値段は安い		安い物が売れる	鮎
保育園で地元産の給食	表示がキチンとしてあるものを買う	農産物の継続ができない	他県から入ってくる作物が多い

ワーク②：魅力と課題を見つけよう！

魅力	生産者の名前が分かる、安心して食べられる、安全、信頼、農業は使わない・最低限にしている、値段が安い、鮮度がいい、米がおいしい、産直市は自分の商品の売れ行きや評価を実感できる、栄養が多そう
課題	農業の後継者がいない、地元のものが地元で売っていない、安定供給が難しい、値段が高い、大手スーパーの参入、他県から入ってくる野菜が多い

ワーク③：地産地消を進めるために必要なこと

テーマ

みんなが幸せに♡

誰が（誰と誰が）

何をするか？ ・ 仕組み ・ 対策案

生産者

消費者

行政

地産地消の日をつくる（例.8月31日：野菜の日）
ex.益田市全体で取り組む



平成30年度まちづくりラウンドテーブル

Fグループ：

ワーク①：地域の状況を共有しよう

保育園へ野菜出荷

空港はちみつ

米の販売

世代間交流

地産地消コーナー

活き活き市

後継者がいない

NOBU

高齢化が進み買い物不便

自宅で栽培
(非農家)

自由市

匹見の特産物がありなが
ら利用店がない

あんのき
(仕出し居酒屋)

豊田さんの食堂開店

振興センターでの
出店

ワーク②：魅力と課題を見つけよう！

魅力

地域の生産者にお金が入り生き甲斐に繋がる、地域にお金がまわる、子供に食のありがたさが伝えられる、安心して食べることができる、安い

課題

安価で売っているがもう少し高くてもいいのでは、生産者がいなくなっている、担い手不足、魅力的な産物は身近に手に入らない、特産品は高い、販売場所が多くない、旬の物以外は手に入りにくい、高齢化で買い物が難しい

ワーク③：地産地消を進めるために必要なこと

テーマ 安心・安全な農産物

誰が（誰と誰が）

何をするか？・・・仕組み・対策案

地域

高齢者

- ・地域行事で販売（場所の提供）
- ・高齢者が作った安心安全な農作物
- ・振興センターの役割（定期的な販売）



—Machidukuri Round Table—

